

■若手に読んでもらいたい本

横澤 勉のおすすめ
神奈川大学工学部 教授

分野：一般
書籍名：ミレニアム1～3
著者名：スティーグ・ラーソン
出版社：早川書房
出版年：文庫本2011年（単行本は2008年）
価格：1上下 各800円（税抜）
2上下 各880円（税抜）
3上下 各900円（税抜）

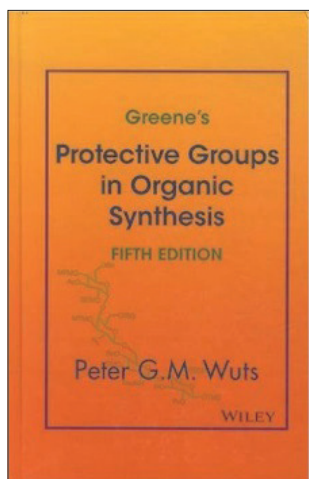
これまで取り上げられた本とは違い、高分子とは全く関係ない娯楽小説を紹介します。スティーグ・ラーソンというスウェーデンの作家のミステリーで、ミレニアム1は「ドラゴン・タトゥーの女」としてハリウッド映画化されている（2011年）。新聞の書評を読んでいると、しばしばこのミレニアムとの比較がされていることからアマゾンの中古本を買って読み始めた。ちょうど1年ほど前、博士論文のチェックを始めたころである。例年、年が明けてから2月終わりまでは、修論と卒論に赤を入れ、それぞれの発表会に合わせて多くの学生を指導する中で、ほかに何もできないトンネルの中にあるような気分になる。そんな状況でこの小説を通勤電車の中で読んだ。主人公はミレニアムという出版社の記者で、自分の執筆した記事について名誉毀損で訴えられ、敗訴するところから物語は始まる。その主人公が、過去のある失踪事件の解明を

頼まれ、膨大な資料を調べていくうちに徐々に謎が明かされていく。また、プロローグの裁判についても最後にはきちんと話が結ばれている。とにかく面白く、この話の展開を考えた作者は天才かと思った。惜しくもミレニアム3を執筆後、心筋梗塞で亡くなっている。

毎年、グレー一色のような、気が滅入る1月と2月。この小説を読んでいる電車の中では映画を見ているような高揚感があり、忘れられない2カ月となった。こういう楽しい本も時には苦しい研究生活には必要でしょう。



■私の役に立った本

村上裕人のおすすめ
長崎大学大学院工学研究科 准教授

分野：化学
書籍名：Protective Groups in Organic Synthesis
著者名：Peter G. M. Wuts
出版社：WILEY
出版年：2014年
価格：\$ 99.95
e-Book = \$ 75.99

新たなコンセプトやアイデアに基づいて機能性分子を設計するまでは楽しいが、いざ合成の段階になって頭を悩ませるのが機能性官能基の導入の順番である。この順番を間違えると、意図した位置に官能基を導入できないばかりでなく、せっかく導入した官能基をつぶしてしまうことにもなる。こんなときに役立つのが“保護基”である。保護基は、ほかの官能基を導入する反応条件には耐えうるが、ある条件下では容易に、かつ高収率で脱保護できる性質をもつ。今は、SciFinderの化学構造検索を用いることで設計した分子に似た構造をもつ分子が簡便に調べられ、その参考文献も容易に手に入る時代である。しかし、私の学生時代はBilsteinやChemical Abstractとにらめっこであり、時には図書館に一日中居座ったこともある。そんなときに紹介されたのがこの本の第1版であった。第1版は1980年9月に発売されており、当時の洋書は高価でおいそれとは買える代物ではなかつ

たため、コピーした書面をきれいに製本したものを洋書屋さんが研究室に売りにきていた。今思えば海賊本だったのかもしれない。この本には種々の官能基に対する保護基が多数列挙されており、その保護・脱保護反応も載っていた。とくに利用したのは巻末にある保護基の反応性をまとめた表である。プロトン酸、ルイス酸や塩基はもちろん、ラジカル化剤、求核剤、酸化還元剤、そして有機金属までの反応性が挙げられていた。この表のおかげで適切な保護基を簡便に見つけることができるようになった。1994年のイギリス留学中に第2版を購入し、昨年第5版を購入した。本の厚さも2倍以上になっており内容もさらに充実している。最近ではもっぱら機能変換のトリガー反応を探すために用いている。一度手にとってみてはどうでしょうか！

